

(11) 外付けストロボの使い方

カメラの内蔵ストロボでは光量が不足するときは、外付けストロボを利用してください。[結婚披露宴やパーティーなどで便利です]

TTLオートで使います。

[ストロボはAF500FTZのように、AF○○FTZあるいはAF○○FTZの名前のストロボを使います。]

1. カメラのホットシューカバーF_Fを外し、ストロボを取り付けます。
2. ストロボの電源スイッチを入れます。
3. ストロボの発光モードをTTLオートにします。
4. ストロボの充電完了を確認します。
5. ピントを合わせて撮影します。

* ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の  が点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。

* 各露出モードでの使い方、シャッター速度・絞り値の変化、低速シンクロ・日中シンクロおよびプログラムシフトの方法については、内蔵ストロボと同様ですから、71～75 ページをご覧ください。

外付けストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、80ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、TYPE BとTYPE CあるいはTYPE DとTYPE Eの組み合わせでお使いください。内蔵ストロボは、どのタイプとでも組み合わせ可能です。

ストロボ機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。	○	○	○	○	○
ピクチャーモード、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる。	○	○	○	○注1	注1
ファインダー内でオートチェックができる		○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○	○注2	
シャッター優先自動露出、マニュアル露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○	○注3
AFスポットビームが使える。		○	○		
後幕シンクロ撮影ができる。注4	注5	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。注4		○			

TYPE A : 内蔵ストロボ

TYPE B : AF500FTZ[注6]、AF330FTZ

TYPE C : AF400FTZ、AF240FT

TYPE D : AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200S_A

TYPE E : AF200S、AF160、AF140

注1 : TYPE D[AF200S_Aを除く]のストロボで、MS[マニュアルシンクロ]、M[マニュアル]を使うときやTYPE Eのストロボを使うときは、絞り優先自動露出、マニュアルおよびバルブで撮影してください。プログラムおよびシャッター優先自動露出では、絞りが変化してしまいますので使えません。

注2 : AF200S_Aは不可。

注3 : マニュアル露出でのみ可能。

注4 : シャッター速度は1/60秒以下になります。

注5 : TYPE BまたはCストロボと組み合わせて後幕シンクロ可能。

注6 : マルチストロボ、スレーブ機能が働きます。

その他のストロボを使用した場合

- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

AF500FTZ、AF330FTZ

- 暗くてオートフォーカスの苦手な物でも、AFスポットビーム[赤色の補助光]を自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。[F・FAレンズ使用時のみ]
- スレープ機能[コードレス]がご利用できます。[AF500FTZのみ]
- ストロボの液晶表示で、撮影可能距離を確認できます。[A・F・FAレンズ使用時のみ]
- マルチ発光モードがご利用できます。[AF500FTZのみ]
- 光量比制御モードがご利用できます。82 ページをご覧ください。
- 露出モードがピクチャーモード[グリーンモードを含む]、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボの発光モードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

- 暗くてオートフォーカスの苦手な物でも、AFスポットビーム[赤色の補助光]を自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- 露出モードがピクチャーモード、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボの発光モードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF200T、AF280T、AF400T

- TTLオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が1/100秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はレンズの焦点距離によって変化します。ただし、オートフォーカス用でないレンズ[F・FA以外のレンズ]使用時および動体モードでは1/100秒固定になります。絞り値は固定となりますが、フィルム感度により変化します。

(81)

- 外光オート[赤・緑・黄位置]で使用すると、絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/100秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、オートフォーカス用でないレンズ[F・FAレンズ以外]使用時および動体モードでは1/100秒固定になります。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄			F11

[ISO 100 の場合]

ストロボ撮影[使用上]の注意

内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせて同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターを切ってください。

光量比制御シンクロ撮影

AF330FTZまたはAF500FTZとカメラの内蔵ストロボを組み合わせることで、2つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影[光量比制御シンクロ撮影]ができます。

1. AF330FTZまたはAF500FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。
2. 外付けストロボと内蔵ストロボのストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

- * 光量の比率は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2になります。
- * AF330FTZ、AF500FTZをカメラから離してご使用になると、光量比制御の効果が大きくなります。この場合には、別売りアクセサリーのホットシューアダプターF[AF330FTZでは2個]と延長コードF5Pをご利用ください。なお、ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- * 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限は1/60秒になります。

(82)

(12) 専用アクセサリー[別売]について

このカメラには、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、各サービス窓口にお問い合わせください。

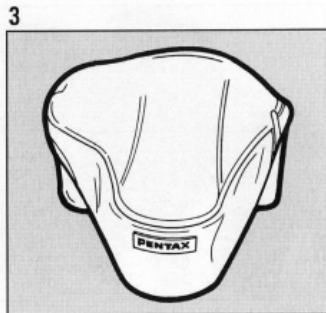
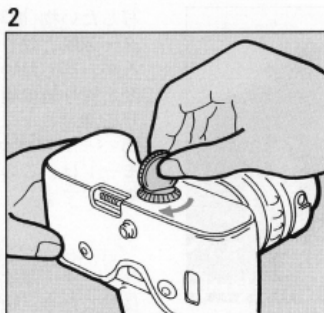
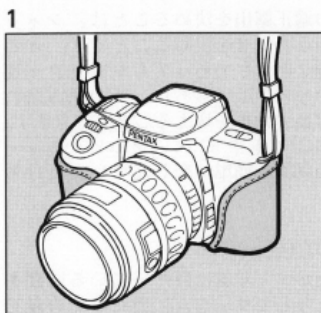
- ケーブルスイッチF
Z-70F、Z-5F、Z-20F、Z-1F、Z-50F、SFXN、SF7等に使えるレリーズコード。
- マグニファイヤーF
ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。
- オートストロボAF500FTZ
ガイドナンバー50のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。スレーブ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。
- オートストロボAF330FTZ
ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。
- ホットシューアダプターF、延長コードF5P
AF500FTZ・AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。
- AFアダプター1.7×
F2.8より明るいオートフォーカス用でないレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。
- マクロストロボAF140C
ガイドナンバー14の接写用ストロボ。

- レフコンバーターA
ファインダーを見る角度を90° 間隔に変えることができるアクセサリー。倍率は1倍と2倍の切り替え式。
- フィルター
スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は49mm・52mm・58mm・67mm・77mmの5種類です。
- グリップストラップF_E
カメラの握りを確実にするためのアクセサリー。

アクセサリーの注意

- 「オートベローズA」はダブルレリーズが使用できません。また、縦位置撮影のときは、カメラのグリップ側を上にしてください。
- 「PENTAX-F*300mmF4.5ED[IF]」レンズの三脚座を使用してカメラを縦位置にすると、カメラのグリップ側を上にとするとレンズの三脚取り付け座がカメラに当たることがあるので、縦位置にするときにはグリップ側を下にしてください。
- 「645レンズ用アダプターK」をボディーに着脱する際、アダプターの固定ネジの位置によってはボディーに当たることがありますのでご注意ください。当たるとは、固定ネジの位置を変えてから行ってください。
- レフレックス1000mmF11や2000mmF13.5レンズをボディーに着脱する際、レンズの縦横変換ロックネジの位置によってはボディーに当たることがありますのでご注意ください。当たるとは、ロックネジの位置を変えてから行ってください。
- 「オートストロボAF200T・AF280T・AF240FT・AF400FTZ」をカメラのホットシューに取り付けて使用する場合、カメラのTv/Avボタンあるいは電源スイッチの操作性が悪くなります。

(13) カメラケース〔ソフトケースF_{CP}〕



ソフトケース〔別売〕は、バックケース〔底ふた〕とフロントケース〔前ふた〕からできています。

1. フロントケースを外して、カメラをバックケースに入れます。
2. ケース下部の取り付けネジを、コインなどを使用して締め付けて固定します。
3. フロントケースを取り付けます。

* フロントケースは、Z-10、Z-20、Z-50用と共通のF_{CS}、F_{CM}あるいはF_{CL}を使用します。右表で、レンズに合うフロントケースをお選びください。

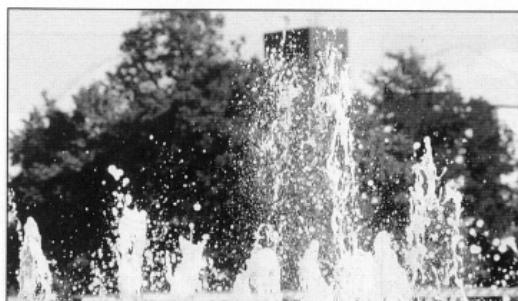
* バックケースF_{CP}は、ソフトケースのS、M、Lに共通です。

フロントケースには、S、M、Lの3種類があります。

ケース	適合するF、FAレンズ
F _{CS}	20mm、28mm、50mm F1.4・F1.7、フィッシュアイズーム17~28mm、ズーム35~80mmなど
F _{CM}	24mm、マクロ50mm、135mm、ズーム28~70mm F4、ズーム28~80mm、ソフト85mmなど
F _{CL}	85mm F1.4、マクロ100mm、ズーム28~105mm、ズーム70~200mm、Fズーム80~200mmなど

85

(14) 絞りとシャッター速度の効果



高速シャッター



低速シャッター

写したい物〔被写体〕の適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、写したい物が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。55 ページのプログラムシフトや 39 ページのピクチャーモードは、この写真の効果を簡単に楽しんでいただけるモードです。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長くなるため、もし、このとき写したい物が動いていれば、当然写したい物がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある物でも動きを止めて写すことができます。また、写したい物が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速のシャッター速度で写すと動感のある写真になります。

86



小絞り側



開放絞り側

絞りの効果

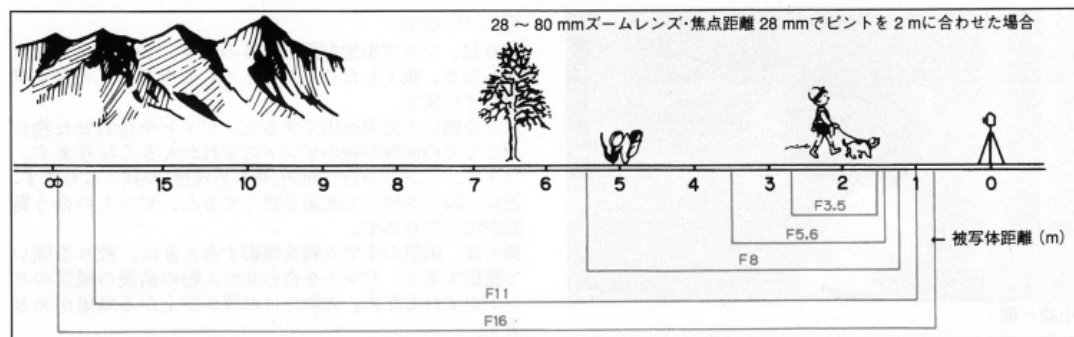
絞りは、レンズを光が通るときに光束[光の太さ]を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のピントのずれが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲[被写界深度]が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広がります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のピントがずれるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントを合わせることができます。

(15) 被写界深度



写したい物のある部分にピントを合わせると、その前後にもピントの合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。

被写界深度[ピントの合う範囲]は、図のように絞りを絞り込むほど深くなりますが、この他にも広角レンズほど、また、写したい物が遠くなるほど被写界深度は深くなります。

ピントの合う範囲

上図は、28~80mmのズームレンズで焦点距離を28mmに、ピントを2mに合わせた場合のピントの合う範囲です。絞りを変えることによってピントの合う範囲[奥行]が変わります。

ズームレンズには機構上被写界深度目盛りは付いていません。